

## 決算書の見方・活用の仕方

Q：決算書の見方と決算書分析の進め方・その活用方法が良くわからないので教えてください。

A：決算書分析により経営改善を。

### 1. 決算書でわかる事

- (1) 「貸借対照表(以下B/S)」は「期末日現在の資産・負債・資本の状況」(財政状態)を表し、創業以来の累計利益や資金調達と運用状況がわかります。
- (2) 損益計算書(以下P/L)は「1事業年度の成果」(経営成績)を表し、どの事業でいくら儲かったかがわかります。
- (3) キャッシュフロ-計算書(以下CF/S)は「1事業年度の収支を営業・投資・財務の3区分に分類し、区分毎の収支(以下CF)及び全社の収支状況と内容がわかります。

### 2. 決算書分析の進め方

決算書分析は(1)実数分析と(2)比率分析(特に損益分岐点分析が重要)から成り、いずれも「時系列比較」、「他社比較」、「個別分析」(部門別、商品別等)により詳細分析します。

#### (1) 実数分析の要点

P/Lは、損益傾向・売上高増減・粗利益以下3つの利益の増減・経費推移・部門別損益推移等

B/Sは、総資産負債の増減バランス・自己資本額・総資産と自己資本額の増減バランス・売掛債権や在庫の増減バランス等

CF/Sは、営業・投資・財務の各CF金額が分析要点となります。

#### (2) 比率分析の要点

収益性分析

他社及び前年と対投資額又は対売上高利益率(総資本経常利益率・売上高経常利益率・資本回転率等)の比較検討により、ア)商品の付加価値向上、イ)営業力強化、ウ)コスト管理徹底等の対策を立案。

#### 損益分岐点分析等の安全性分析

他社及び前年と流動比率・固定比率・自己資本比率・損益分岐点比率(80%台以下が理想)等を比較検討し、ア)損益分岐点比率引下げ、イ)労働分配率の管理、ウ)回収・支払サイトの改善、エ)遊休資産処分等の対策を立案。

#### 生産性その他の分析

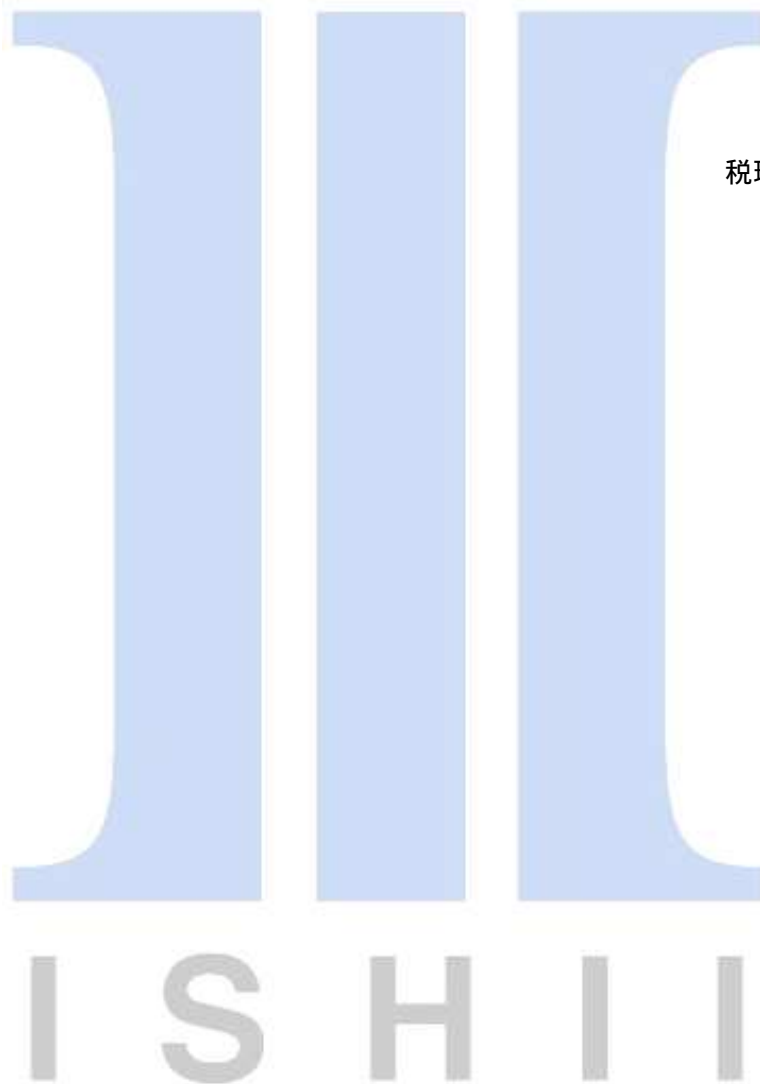
付加価値/人・労働分配率・債務償還年数(10年以内が望ましい)等を比較検討し対策を立案。

#### 成長性分析

売上高増加率、経常利益増加率、自己資本増加率等を比較検討します。

### 3. 決算書分析の活用方法

決算書分析は他社・時系列比較により、傾向とその要因を分析します。次いで具体的改善策の立案と経営計画修正により、社内周知と経営改善を図ります。なお同業他社比較には、T K C 経営指標が参考になります。



平成 27 年 11 月  
税理士法人石井会計